

2018年5月1日

新入生を祝福 3校舎で春の入学式

東海大学の2018年度春学期入学式が、湘南（4月1日）、熊本（4日）、札幌（6日）の各校舎で行われた。大学院や学部別科日本語研修課程などに約7600人が入学した（4月1日現在。編入学を含む）。湘南校舎では午前と午後の2部に分けて実施。午前の部は医療技術短期大学と合同で行われている。

山田清志学長による式辞は3校舎とも、新入生

がグローバル化に対応できる人材に育ってほしいという思いを込めてすべて英語でスピーチ。昨年度、学校法人東海大学が建学75周年を迎えたことを踏まえ、「建学100周年を見据え、本学は、『先駆けであるという』『Think Ahead, Act for Humanity』というブランドメッセージを掲げました。この言葉を胸に、充実した学生生活を送ってください」と激励した。



湘南校舎午前の部の祝辞には学校法人東海大学の松前義昭理事長に続いて、神奈川県黒岩祐治知事が登壇し写真。一社

会は大きく変化しており、「人間は何をするのか？」「人間の仕事とは何か？」を追求する時代です。新しい時代のリーダーを目指してください」と力強く語った。
なお、湘南校舎の17年度秋学期学位授与式は、3月24、25の両日に挙行。大学院、学部、別科日本語研修課程から約5900人が集立った。（熊本、札幌両校舎は本紙4月1日号に既報）

東海大学ARカメラで オリジナル記念写真を

湘南校舎の学位授与式と入学式で「ARプロシエクト」が実施された。

教養学部の戸谷毅史学部長が、学位授与式

や入学式を盛り上げようと発案したもの。実在する風景にバーチャルな視覚情報を重ねて表示する「拡張現実（AR）」を用いたオリジナルアプリ

ARカメラを使って笑顔で記念撮影

「東海大学ARカメラ」を、情報通信学部の1期生で、濱本和彦学部長のゼミに所属していた原田恒平さん（2011年度卒）が取締役を務めるタイニーコア㈱が開発。教養学部芸術学科デザイン学課程の学生がチームをデザインした。式当日は、キャンパス内に設置されたポイントでアプリを起動すると、GPSの位置情報によって場所に合わせたさまざまなフレームが出現。卒業生や新入生がオリジナルの写真を楽しんでいた。

【7面に関連記事】

